

民報 ゆうばり

札幌 志位演説会に6500人！

参院選全1人区で『野党共闘』実現！

野党の共闘と市民の共同が実現した 画期的な参議院議員選挙はじまる

6月5日、札幌で志位和夫委員長の演説会があり、6500名が参加しました。夕張から13名が駆けつけ、話を聞きました。衆議院5区補欠選挙で善戦した池田真紀さんが、「野党の共闘と市民の共同で、北海道から新しい風を吹かせることがで

ました」と挨拶。森つねと勝手連のみなさんの、選挙戦にそなえ自分たちの持ち味をいかした工夫した取組が紹介されました。まさに市民共同型参議院選挙という、これまでにない演説会になりました。森つねとさんは、「命を大切にする政治実現のため、27年ぶりの共産党の議席を再び！」と訴え、志位和夫委員長は、「日本の夜明けは、この北海道から！」と訴え、会場からは大きな拍手が沸き起こりました。



市内23か所でくまがい市議街頭からの訴え —いよいよ参院選—戦争法廃止の政府を！

6月2日、日本共産党総合後援会では、くまがい桂子市議とともに市内23か所で、参議院選挙に向けての街頭宣伝を実施しました。

くまがい市議は、「北海道衆院5区補選での大健闘が全国を励まし、32の一人区全てで野党統一候補が決定しました。野党が共闘し、市民とともにたたかう選挙にすれば、政治は必ず変わります。『戦争法はすぐに廃止』『立憲主義を取り戻す』『安倍改憲を許さない』税金の集め方・使い方・働き方をチェンジして、国民の権利と生活を守る『ルールある経済社会』をご一緒につくりましょう！」と訴えました。

窓を開けて聞いていた人や車から手を振ってくれる人などもおおくあり、大きな手ごたえを感じた街頭宣伝となりました。



入る通行者が多くいました。志位さんの声は札幌のビル街にこだまし、日本政治の新しい幕開け、野党と市民の共同による「安倍退陣！・立憲主義を取り戻す市民革命」が始まっています。

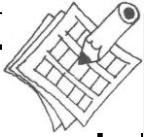
演説会に参加した誰もが、参議院選挙勝利に向けた強い決意にあふれ、それぞれの心の中で「選挙で共産党の支持を大きく広げよう」と決意する、感動的な集会でした。

全国の非正規で働く仲間、札幌に集合！

6月4日5日二日間にわたって、開催された「第24回非正規で働く労働者の全国交流集会が、札幌・かでのる27でありました。

夕張労連から2名の組合員が参加しました。

二日目の分科会では、全国の青年ユニオンが活躍していることが報告され、最賃・今すぐ時給1000円を実現し、全国一律・最賃1500円目指そう！との一致した要求を掲げ、ブラック職場追放を誓いました。



くずさんの夕張歴史散歩(49)

悲惨をきわめる若鍋坑の災害

明治から大正にかけて三桁二桁の犠牲者を出す大災害をみますが、中でも悲惨を極めたのは、夕張若鍋坑（石狩石炭株式会社）のガス・炭塵爆発災害を挙げねばなりません。

炭鉱災害史上の大量殺傷

一九一四年（大正3年）十一月二十八日、若鍋坑西斜坑全域にわたってガス・炭塵爆発が起こり、死亡者四百二十三名、負傷者二十五名の犠牲者を出してしまします。

この災害は日本の炭鉱災害史上、九州田川・三菱方城炭鉱の六百八十七名死亡（大正3年）、三井三池炭鉱の四百五十八名死亡（昭和38年）に次ぐ、第三位の重大事故となりました。

若鍋坑の地獄図

当時の新聞は、この様子を生々しく報じています。ここに、そのまま転記してこの惨事を伝えようと思います。（夕張市史より転載）

「天空が引き裂かれるような無気味な大音響とともに、ある者は爆風で側壁に叩きつけられ、ある者は崩落で逃げ場を閉ざされ、ある者は安全を求め逃げまどううちに跡ガスをで倒れた」

「ガス爆発による被害者は、被服はちぎれ、頭髮や皮膚は焼けただれて垂れ下がり、はらわたは飛び出し、まさに地獄絵をまのあたりに見るような光景」であり

「最も悲惨だったのは落盤の奥に幽かに悲鳴をあげて助けを求め、声が聞こえ、斜坑の崩落した間に夫婦の者が落盤の間より首だけ出して助けを求めているが、落盤が甚だしく危険が大きくて救出すわけにいかなかった」と報じています。



森 つねと「かけある記」

日本共産党道国政相談室長

森 つねと

命を守る政治へ

圧巻の光景でした。志位和夫委員長を迎えた六月五日の日本共産党街頭演説。札幌・大通公園の西十一丁目広場が六五〇〇人の市民で埋め尽くされました。

衆院道五区補選をたたかった池田真紀さんの登壇に会場が沸騰。私といわぶち友さん（参院比例予定候補）の決意表明に、たくさんの声援をいただきました。

大きな拍手で迎えられた志位委員長は、参院選は「安倍暴走政治の全体が問われる」と指摘。戦争法とともに、国民を縛る「自民党改憲草案」を許していいのかが大争点だと述べ、「戦争と独裁に道を開く『安倍改憲』にストップの審判を」と力説しました。演説が終わっても、その場に残る人たちの姿が目立ちました。「VOTE！（投票しよう）」と書かれたTシャツを着ていたのは脱原発の運動のリーダー。「森君に投票しようってことだよ」との言葉に胸が熱くなりました。

苫小牧から来た若者は私と息子の写真入りのうちわを手にし、思わず涙腺が緩みました。「パパを応援してネ」の文字が。

立候補表明から一年。たくさんの人たちに支えられながら全道を駆け回り、戦争法やTPPを許さないたたかいを広げてきました。息子の誕生と看病は、私の人生観を変えました。

始まった野党共闘の成功と日本共産党の躍進で、あなたの命を守りたい。北海道から私、森つねとを国会へ押し上げてくださーい！